

本資料のうち、枠囲みの内容は、  
営業秘密または防護上の観点から  
公開できません。

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-408 改0
提出年月日	平成30年5月25日

## V-2-5-5-1-1 高圧炉心スプレイ系ポンプの耐震性についての計算書

## 目次

1. 概要 .....	1
2. 一般事項 .....	1
2.1 構造計画 .....	1
3. 構造強度評価 .....	3
3.1 構造強度評価方法 .....	3
3.2 荷重の組合せ及び許容応力 .....	3
4. 機能維持評価 .....	8
4.1 動的機能維持評価方法 .....	8
5. 評価結果 .....	9
5.1 設計基準対象施設としての評価結果 .....	9
5.2 重大事故等対処設備としての評価結果 .....	9

## 1. 概要

本計算書は、「V-2-1-9 機能維持の検討方針」にて設定している構造強度及び機能維持の設計方針に基づき、高圧炉心スプレイ系ポンプが設計用地震力に対して十分な構造強度及び動的機能を有していることを説明するものである。

高圧炉心スプレイ系ポンプは、設計基準対象施設においてはSクラス施設に、重大事故等対処設備においては常設耐震重要重大事故防止設備に分類される。以下、分類に応じた構造強度評価及び動的機能維持評価を示す。

## 2. 一般事項

### 2.1 構造計画

高圧炉心スプレイ系ポンプの構造計画を表 2-1 に示す。

表 2-1 構造計画

計画の概要		概略構造図
基礎・支持構造	主体構造	
<p>ポンプはポンプベースに固定され、ポンプベースは基礎ボルトで基礎に据え付ける。</p>	<p>ターボ形</p>	<p>The diagram is a vertical cross-section of a pump assembly. At the top, there is a motor or drive unit connected to a pump shaft. Labels point to various parts: '原動機取付ボルト' (Motor mounting bolt) at the top, '原動機台取付ボルト' (Motor base mounting bolt) below it, and 'ポンプ取付ボルト' (Pump mounting bolt) further down. The pump is mounted on a '基礎ボルト' (Foundation bolt) which is secured to a concrete base. Below the pump, a vertical shaft labeled 'コラムパイプ' (Column pipe) extends downwards, surrounded by a 'パシブルゲージング' (Passible gauging) section. A dimension line indicates a distance of '0.61' from the pump base to the start of the column pipe.</p>

### 3. 構造強度評価

#### 3.1 構造強度評価方法

高圧炉心スプレイ系ポンプの構造はたて軸ポンプであるため、構造強度評価は、「V-2-1-14-5 たて軸ポンプの耐震性についての計算書作成の基本方針」に記載の耐震計算方法に基づき評価する。

#### 3.2 荷重の組合せ及び許容応力

##### 3.2.1 荷重の組合せ及び許容応力状態

高圧炉心スプレイ系ポンプの荷重の組合せ及び許容応力状態のうち設計基準対象施設の評価に用いるものを表3-1に、重大事故等対処設備の評価に用いるものを表3-2に示す。

##### 3.2.2 許容応力

高圧炉心スプレイ系ポンプの許容応力を表3-3～表3-4に示す。

##### 3.2.3 使用材料の許容応力評価条件

高圧炉心スプレイ系ポンプの使用材料の許容応力のうち設計基準対象施設の評価に用いるものを表3-5に、重大事故等対処設備の評価に用いるものを表3-6に示す。

表 3-1 荷重の組合せ及び許容応力状態（設計基準対象施設）

施設区分		機器名称	耐震設計上の 重要度分類	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
原子炉冷却 系統施設	非常用炉心冷却設備そ の他原子炉注水設備	高圧炉心スプレイ系 ポンプ	S	クラス 2 ポンプ*	$D + P_D + M_D + S_d^*$	Ⅲ <sub>A</sub> S
					$D + P_D + M_D + S_s$	Ⅳ <sub>A</sub> S

注記\*：クラス 2 ポンプの支持構造物を含む。

表 3-2 荷重の組合せ及び許容応力状態（重大事故等対処設備）

施設区分		機器名称	設備分類* <sup>1</sup>	機器等の区分	荷重の組合せ	許容応力状態
原子炉冷却 系統施設	非常用炉心冷却設備そ の他原子炉注水設備	高圧炉心スプレイ系 ポンプ	常設耐震 ／防止	重大事故等 クラス 2 ポンプ* <sup>2</sup>	$D + P_D + M_D + S_s^{*3}$	Ⅳ <sub>A</sub> S
					$D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$	V <sub>A</sub> S* <sup>4</sup> (V <sub>A</sub> Sとして Ⅳ <sub>A</sub> Sの許容限 界を用いる。)

注記\*1：「常設耐震／防止」は常設耐震重要重大事故防止設備，「常設／防止」は常設耐震重要重大事故防止設備以外の常設重大事故防止設備，  
「常設／緩和」は常設重大事故緩和設備を示す。

\*2：重大事故等クラス 2 ポンプの支持構造物を含む。

\*3：「 $D + P_{SAD} + M_{SAD} + S_s$ 」の評価に包絡されるため，評価結果の記載を省略する。

表 3-3 許容応力 (クラス 2, 3 ポンプ及び重大事故等クラス 2 ポンプ)

許容応力状態	許容限界*			
	一次一般膜応力	一次膜応力+ 一次曲げ応力	一次+二次応力	一次+二次+ ピーク応力
III <sub>A</sub> S	S <sub>y</sub> と0.6・S <sub>u</sub> の小さい方 ただし、オーステナイト系ステンレス鋼及び高ニッケル合金については上記値と1.2・Sとの大きい方	左欄の1.5倍の値	弾性設計用地震動S <sub>d</sub> 又は基準地震動S <sub>s</sub> のみによる疲労解析を行い、疲労累積係数が1.0以下であること。 ただし、地震動のみによる一次+二次応力の変動値が2・S <sub>y</sub> 以下であれば、疲労解析は行わない。	
IV <sub>A</sub> S				
V <sub>A</sub> S (V <sub>A</sub> SとしてIV <sub>A</sub> Sの許容限界を用いる。)	0.6・S <sub>u</sub>	左欄の1.5倍の値	基準地震動S <sub>s</sub> のみによる疲労解析を行い、疲労累積係数が1.0以下であること。 ただし、地震動のみによる一次+二次応力の変動値が2・S <sub>y</sub> 以下であれば、疲労解析は行わない。	

注記 \* : 当該の応力が生じない場合、規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。

表 3-4 許容応力（クラス 2， 3 支持構造物及び重大事故等クラス 2 支持構造物）

許容応力状態	許容限界*1, *2 (ボルト等)	
	一次応力	
	引張り	せん断
Ⅲ <sub>A</sub> S	$1.5 \cdot f_t$	$1.5 \cdot f_s$
Ⅳ <sub>A</sub> S	$1.5 \cdot f_t^*$	$1.5 \cdot f_s^*$
V <sub>A</sub> S (V <sub>A</sub> SとしてⅣ <sub>A</sub> Sの許容限界を用いる。)		

注記 \*1: 応力の組合せが考えられる場合には，組合せ応力に対しても評価を行う。

\*2: 当該の応力が生じない場合，規格基準で省略可能とされている場合及び他の応力で代表可能である場合は評価を省略する。



表 3-5 使用材料の許容応力評価条件 (設計基準対象施設)

評価部材	材料	温度条件 (°C)		S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R T) (MPa)
		最高使用温度				
バレルケーシング		最高使用温度	100	194	373	—
コラムパイプ		最高使用温度	100	194	373	—
基礎ボルト		周囲環境温度		206	385	—
ポンプ取付ボルト		最高使用温度	100	685	847	—
原動機台取付ボルト		最高使用温度	100	194	373	—
原動機取付ボルト		周囲環境温度		206	385	—

表 3-6 使用材料の許容応力評価条件 (重大事故等対処設備)

評価部材	材料	温度条件 (°C)		S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	S <sub>y</sub> (R T) (MPa)
		最高使用温度				
バレルケーシング		最高使用温度	148	181	373	—
コラムパイプ		最高使用温度	148	181	373	—
基礎ボルト		周囲環境温度		206	385	—
ポンプ取付ボルト		最高使用温度	148	654	847	—
原動機台取付ボルト		最高使用温度	148	181	373	—
原動機取付ボルト		周囲環境温度		206	385	—

#### 4. 機能維持評価

##### 4.1 動的機能維持評価方法

高圧炉心スプレイ系ポンプの地震後の動的機能維持評価について、以下に示す。

高圧炉心スプレイ系ポンプは地震時動的機能維持が確認された機種と類似の構造及び振動特性であるため、「V-2-1-9 機能維持の基本方針」に記載の機能確認済加速度を適用する。機能確認済加速度を表 4-1 に示す。

表 4-1 機能確認済加速度 (単位： $\times 9.8 \text{ m/s}^2$ )

評価部位	形式	方向	機能確認済加速度
ポンプ	ピットバレル形 ポンプ	水平	10.0
		鉛直	1.0
原動機	立形すべり 軸受電動機	水平	2.5
		鉛直	1.0

## 5. 評価結果

### 5.1 設計基準対象施設としての評価結果

高圧炉心スプレイ系ポンプの設計基準対象施設としての耐震評価結果を以下に示す。発生値は許容限界を満足しており、設計用地震力に対して十分な構造強度及び動的機能を有していることを確認した。

#### (1) 構造強度評価結果

構造強度評価の結果を次頁以降の表に示す。

#### (2) 機能維持評価結果

動的機能維持評価の結果を次頁以降の表に示す。

### 5.2 重大事故等対処設備としての評価結果

高圧炉心スプレイ系ポンプの重大事故等時の状態を考慮した場合の耐震評価結果を以下に示す。発生値は許容限界を満足しており、設計用地震力に対して十分な構造強度及び動的機能を有していることを確認した。

#### (1) 構造強度評価結果

構造強度評価の結果を次頁以降の表に示す。

#### (2) 機能維持評価結果

動的機能維持評価結果を次頁以降の表に示す。

【高圧炉心スプレイ系ポンプの耐震性についての計算結果】

1. 設計基準対象施設

1.1 設計条件

機器名称	耐震設計上の重要度分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度		基準地震動 S <sub>s</sub>		ポンプ振動による震度	最高使用温度 (°C)	周囲環境温度 (°C)	最高使用圧力 (MPa)	
			水平方向	鉛直方向	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度	水平方向設計震度	鉛直方向設計震度				吸込側	吐出側
高圧炉心スプレイ系ポンプ	S	原子炉建屋 EL. -4.0*1	0.115	0.017	C <sub>H</sub> =0.58 又は*2	C <sub>V</sub> =0.48	C <sub>H</sub> =0.87 又は*3	C <sub>V</sub> =0.90	C <sub>p</sub> =0.09	100		0.76	11.07

注記 \*1: 基準床レベルを示す。

\*2: 弾性設計用地震動 S<sub>d</sub> に基づく設計用床応答スペクトルより得られる値

\*3: 基準地震動 S<sub>s</sub> に基づく設計用床応答スペクトルより得られる値

1.2 機器要目

(1) ボルト

部材	m <sub>i</sub> (kg)	D <sub>i</sub> (mm)	A <sub>b i</sub> (mm <sup>2</sup> )	n <sub>i</sub>	n <sub>f i</sub>	M <sub>p</sub> (N・mm)	S <sub>y i</sub> (MPa)	S <sub>u i</sub> (MPa)	F <sub>i</sub> (MPa)	F <sub>i</sub> * (MPa)
基礎ボルト (i=1)				12	12	—	206*2 (40<径≤100mm)	385*2	206	247
ポンプ取付ボルト (i=2)				40	40	1.451×10 <sup>7</sup>	685*1 (径≤60mm)	847*1 (径≤60mm)	592	592
原動機台取付ボルト (i=3)				8	8	1.451×10 <sup>7</sup>	194*1 (40<径≤100mm)	373*1	194	232
原動機取付ボルト (i=4)				12	12	1.451×10 <sup>7</sup>	206*2 (40<径≤100mm)	385*2	206	247

注記 \*1: 最高使用温度で算出

\*2: 周囲環境温度で算出

(2) バレルケーシング, コラムパイプ

部材	S (MPa)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	D <sub>c</sub> (mm)	t (mm)
バレルケーシング	—	194*1	373	1272.0	14.0
コラムパイプ	—	194*1	373	340.0	22.0

注記 \*1: 最高使用温度で算出

10

予想最大両振幅 (μm)	回転速度 (min <sup>-1</sup> )
H <sub>p</sub> <input type="text"/>	N <input type="text"/>

1.3 計算数値

(1) ボルトに作用する力

部 材	M <sub>i</sub> (N・mm)		F <sub>b i</sub> (N)		Q <sub>b i</sub> (N)	
	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	基準地震動 S <sub>s</sub>	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	基準地震動 S <sub>s</sub>	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	基準地震動 S <sub>s</sub>
基礎ボルト (i=1)	2.200×10 <sup>8</sup>	3.045×10 <sup>8</sup>	—	2.434×10 <sup>4</sup>	3.308×10 <sup>5</sup>	4.580×10 <sup>5</sup>
ポンプ取付ボルト (i=2)	3.402×10 <sup>8</sup>	4.710×10 <sup>8</sup>	4.238×10 <sup>3</sup>	1.854×10 <sup>4</sup>	3.308×10 <sup>5</sup>	4.580×10 <sup>5</sup>
原動機台取付ボルト (i=3)	2.291×10 <sup>8</sup>	3.741×10 <sup>8</sup>	3.292×10 <sup>4</sup>	7.399×10 <sup>4</sup>	2.003×10 <sup>5</sup>	2.773×10 <sup>5</sup>
原動機取付ボルト (i=4)	9.960×10 <sup>7</sup>	1.379×10 <sup>8</sup>	6.702×10 <sup>3</sup>	2.030×10 <sup>4</sup>	8.931×10 <sup>4</sup>	1.236×10 <sup>5</sup>

(2) バレルケーシング, コラムパイプに作用する力  
(単位: N・mm)

部 材	M	
	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	基準地震動 S <sub>s</sub>
バレルケーシング	2.184×10 <sup>8</sup>	3.764×10 <sup>8</sup>
コラムパイプ	2.686×10 <sup>8</sup>	4.631×10 <sup>8</sup>

1.4 結論

1.4.1 固有周期

(単位: s)

モード	固有周期
水平1次	T <sub>H1</sub> =0.115
水平2次	T <sub>H2</sub> =0.047
鉛直1次	T <sub>V1</sub> =0.017

1.4.2 ボルトの応力

(単位: MPa)

部 材	材料	応力	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度		基準地震動 S <sub>s</sub>	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト	[ ]	引張り	[ ]	[ ]	[ ]	[ ]
		せん断				
ポンプ取付ボルト		引張り				
		せん断				
原動機台取付ボルト		引張り				
		せん断				
原動機取付ボルト		引張り				
		せん断				

注記\*:  $f_{t s i} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{t o i} - 1.6 \cdot \tau b i, f_{t o i}]$ より算出

すべて許容応力以下である。

1.4.3 バレルケーシング, コラムパイプの応力

(単位: MPa)

部 材	材料	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	一次一般膜応力	
			算出応力	許容応力
バレルケーシング	[ ]	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	[ ]	[ ]
		基準地震動 S <sub>s</sub>		
コラムパイプ		弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度		
		基準地震動 S <sub>s</sub>		

すべて許容応力以下である。

1.4.4 動的機能の評価結果

(単位: ×9.8 m/s<sup>2</sup>)

		評価用加速度	機能確認済加速度
ポンプ	水平方向	0.72	10.0
	鉛直方向	0.75*	1.0
原動機	水平方向	0.72	2.5
	鉛直方向	0.75*	1.0

評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。 注記\*: 評価用加速度は 1.0ZPA

【高圧炉心スプレイ系ポンプの耐震性についての計算結果】

2. 重大事故対処設備

2.1 設計条件

機器名称	設備分類	据付場所及び床面高さ (m)	固有周期 (s)		弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は 静的震度		基準地震動 S <sub>s</sub>		ポンプ振動 による震度	最高使用 温度 (°C)	周囲環境 温度 (°C)	最高使用圧力 (MPa)	
			水平方向	鉛直方向	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度	水平方向 設計震度	鉛直方向 設計震度				吸込側	吐出側
高圧炉心 スプレイ系 ポンプ	常設耐震/防止	原子炉建屋 EL. -4.0*1	0.115	0.017	—	—	C <sub>H</sub> =0.87 又は*2	C <sub>V</sub> =0.90	C <sub>P</sub> =0.09	148	<input type="text"/>	0.76	11.07

注記 \*1: 基準床レベルを示す。

\*2: 基準地震動 S<sub>s</sub> に基づく設計用床応答スペクトルより得られる値

2.2 機器要目

(1) ボルト

部 材	m <sub>i</sub> (kg)	D <sub>i</sub> (mm)	A <sub>b i</sub> (mm <sup>2</sup> )	n <sub>i</sub>	n <sub>f i</sub>	M <sub>p</sub> (N・mm)	S <sub>y i</sub> (MPa)	S <sub>u i</sub> (MPa)	F <sub>i</sub> (MPa)	F <sub>i</sub> <sup>*</sup> (MPa)
基礎ボルト (i=1)	<input type="text"/>	<input type="text"/>	<input type="text"/>	12	12	—	206*2 (40<径≦100mm)	385*2	—	247
ポンプ取付ボルト (i=2)				40	40	1.451×10 <sup>7</sup>	—	847*1 (径≦60mm)	—	592
原動機台取付ボルト (i=3)				8	8	1.451×10 <sup>7</sup>	181*1 (40<径≦100mm)	373*1	—	217
原動機取付ボルト (i=4)				12	12	1.451×10 <sup>7</sup>	206*2 (40<径≦100mm)	385*2	—	247

注記 \*1: 最高使用温度で算出

\*2: 周囲環境温度で算出

(2) バレルケーシング, コラムパイプ

部 材	S (MPa)	S <sub>y</sub> (MPa)	S <sub>u</sub> (MPa)	D <sub>c</sub> (mm)	t (mm)
バレルケーシング	—	181*1	373	1272.0	14.0
コラムパイプ	—	181*1	373	340.0	22.0

注記 \*1: 最高使用温度で算出

12

予想最大両振幅 (μm)	回転速度 (min <sup>-1</sup> )
H <sub>r</sub> <input type="text"/>	N <sub>r</sub> <input type="text"/>

2.3 計算数値

(1) ボルトに作用する力

部 材	M <sub>i</sub> (N・mm)		F <sub>b i</sub> (N)		Q <sub>b i</sub> (N)	
	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	基準地震動 S <sub>s</sub>	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	基準地震動 S <sub>s</sub>	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	基準地震動 S <sub>s</sub>
基礎ボルト (i=1)	—	3.045×10 <sup>8</sup>	—	2.434×10 <sup>4</sup>	—	4.580×10 <sup>5</sup>
ポンプ取付ボルト (i=2)	—	4.710×10 <sup>8</sup>	—	1.854×10 <sup>4</sup>	—	4.580×10 <sup>5</sup>
原動機台取付ボルト (i=3)	—	3.741×10 <sup>8</sup>	—	7.399×10 <sup>4</sup>	—	2.773×10 <sup>5</sup>
原動機取付ボルト (i=4)	—	1.379×10 <sup>8</sup>	—	2.030×10 <sup>4</sup>	—	1.236×10 <sup>5</sup>

(2) バレルケーシング, コラムパイプに作用する力  
(単位: N・mm)

部 材	M (N・mm)	
	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	基準地震動 S <sub>s</sub>
バレルケーシング	—	3.764×10 <sup>8</sup>
コラムパイプ	—	4.631×10 <sup>8</sup>

2.4 結論

2.4.1 固有周期 (単位: s)

モード	固有周期
水平1次	T <sub>H1</sub> =0.115
水平2次	T <sub>H2</sub> =0.047
鉛直1次	T <sub>V1</sub> =0.017

2.4.2 ボルトの応力 (単位: MPa)

部 材	材料	応力	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度		基準地震動 S <sub>s</sub>	
			算出応力	許容応力	算出応力	許容応力
基礎ボルト	[ ]	引張り	—	—	[ ]	[ ]
		せん断	—	—		
ポンプ取付ボルト	[ ]	引張り	—	—		
		せん断	—	—		
原動機台取付ボルト	[ ]	引張り	—	—		
		せん断	—	—		
原動機取付ボルト	[ ]	引張り	—	—		
		せん断	—	—		

すべて許容応力以下である。

注記\*:  $f_{tsi} = \text{Min}[1.4 \cdot f_{toi} - 1.6 \cdot \tau_{bi}, f_{toi}]$ より算出

2.4.3 バレルケーシング, コラムパイプの応力 (単位: MPa)

部 材	材料	一次一般膜応力	
		算出応力	許容応力
バレルケーシング	[ ]	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	[ ]
		基準地震動 S <sub>s</sub>	
コラムパイプ	[ ]	弾性設計用地震動 S <sub>d</sub> 又は静的震度	
		基準地震動 S <sub>s</sub>	

すべて許容応力以下である。

2.4.4 動的機能の評価結果 (単位: ×9.8 m/s<sup>2</sup>)

		評価用加速度	機能確認済加速度
ポンプ	水平方向	0.72	10.0
	鉛直方向	0.75*	1.0
原動機	水平方向	0.72	2.5
	鉛直方向	0.75*	1.0

評価用加速度はすべて機能確認済加速度以下である。 注記\*: 評価用加速度は 1.0ZPA

別添 その他の機器要目

(1) 節点データ

節点番号	節点座標 (mm)		
	x	y	z
1			
2			
3			
4			
5			
6			
7			
8			
9			
10			
11			
12			
13			
14			
15			
16			
17			
18			
19			
20			
21			
22			
23			
24			
25			
26			
27			
28			
29			
30			
31			
32			
33			
34			
35			
36			
37			
38			
39			
40			
41			
42			
43			
44			
45			
46			
47			
48			
49			

NT2 補③ V-2-5-5-1-1 R0



(続き)

節点番号	節点座標 (mm)		
	X	Y	Z
50			
51			
52			
53			
54			
55			
56			
57			
58			
59			
60			
61			
62			
63			
64			
65			
66			
67			
68			
69			
70			
71			
72			
73			
74			
75			
76			
77			
78			
79			
80			
81			
82			
83			
84			
85			
86			
87			

## (2) 要素の断面性状

断面特性番号 (要素番号)	要素両端の節点 番号	材料 番号	断面積 (mm <sup>2</sup> )	断面二次 モーメント (mm <sup>4</sup> )	断面二次 極モーメント (mm <sup>4</sup> )
1	1-2	1		1.198×10 <sup>7</sup>	2.397×10 <sup>7</sup>
2	2-3	1		1.198×10 <sup>7</sup>	2.397×10 <sup>7</sup>
3	3-4	1		7.724×10 <sup>6</sup>	1.545×10 <sup>7</sup>
4	4-5	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
5	5-6	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
6	6-7	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
7	7-8	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
8	8-9	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
9	9-10	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
10	10-11	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
11	11-12	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
12	12-13	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
13	13-14	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
14	14-15	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
15	15-16	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
16	16-17	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
17	17-18	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
18	18-19	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
19	19-20	1		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
20	20-21	1		1.497×10 <sup>8</sup>	2.994×10 <sup>8</sup>
21	21-22	1		2.833×10 <sup>7</sup>	5.667×10 <sup>7</sup>
22	22-23	1		2.833×10 <sup>7</sup>	5.667×10 <sup>7</sup>
23	23-24	1		3.217×10 <sup>7</sup>	6.434×10 <sup>7</sup>
24	24-25	1		3.217×10 <sup>7</sup>	6.434×10 <sup>7</sup>
25	25-26	4		3.230×10 <sup>8</sup>	6.459×10 <sup>8</sup>
26	26-27	6		1.886×10 <sup>7</sup>	3.771×10 <sup>7</sup>
27	27-28	6		5.153×10 <sup>7</sup>	1.031×10 <sup>8</sup>
28	28-29	6		2.833×10 <sup>7</sup>	5.667×10 <sup>7</sup>
29	30-31	2		1.650×10 <sup>8</sup>	3.300×10 <sup>8</sup>
30	31-32	2		1.313×10 <sup>9</sup>	2.625×10 <sup>9</sup>
31	32-33	2		1.313×10 <sup>9</sup>	2.625×10 <sup>9</sup>
32	33-34	3		6.562×10 <sup>8</sup>	1.312×10 <sup>9</sup>
33	34-35	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
34	35-36	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
35	36-37	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
36	37-38	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
37	38-39	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
38	39-40	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
39	40-41	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
40	41-42	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
41	42-43	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
42	43-44	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
43	44-45	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
44	45-46	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
45	46-47	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
46	47-48	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
47	48-49	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
48	49-50	2		3.872×10 <sup>10</sup>	7.744×10 <sup>10</sup>
49	50-51	3		2.645×10 <sup>9</sup>	5.291×10 <sup>9</sup>

(続き)

断面特性番号 (要素番号)	要素両端の節点 番号	材料 番号	断面積 (mm <sup>2</sup> )	断面二次 モーメント (mm <sup>4</sup> )	断面二次 極モーメント (mm <sup>4</sup> )
50	51-52	3		1.442×10 <sup>9</sup>	2.884×10 <sup>9</sup>
51	52-53	3		1.442×10 <sup>9</sup>	2.884×10 <sup>9</sup>
52	53-54	3		2.650×10 <sup>8</sup>	5.299×10 <sup>8</sup>
53	53-83	3		1.442×10 <sup>9</sup>	2.884×10 <sup>9</sup>
54	55-56	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
55	56-57	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
56	57-58	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
57	58-59	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
58	59-60	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
59	60-61	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
60	61-62	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
61	62-63	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
62	63-64	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
63	64-65	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
64	65-66	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
65	66-67	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
66	67-68	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
67	68-69	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
68	69-70	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
69	70-71	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
70	71-72	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
71	72-73	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
72	73-74	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
73	74-75	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
74	75-76	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
75	76-77	3		1.169×10 <sup>10</sup>	2.339×10 <sup>10</sup>
76	77-78	3		1.305×10 <sup>10</sup>	2.611×10 <sup>10</sup>
77	79-80	5		2.865×10 <sup>12</sup>	5.731×10 <sup>12</sup>
78	80-81	3		4.907×10 <sup>11</sup>	9.814×10 <sup>11</sup>
79	81-82	3		3.047×10 <sup>10</sup>	6.093×10 <sup>10</sup>
80	82-83	3		3.047×10 <sup>10</sup>	6.093×10 <sup>10</sup>
81	83-84	5		2.838×10 <sup>10</sup>	5.677×10 <sup>10</sup>
82	84-85	6		1.887×10 <sup>10</sup>	3.774×10 <sup>10</sup>
83	85-86	6		1.887×10 <sup>10</sup>	3.774×10 <sup>10</sup>
84	86-87	6		5.646×10 <sup>9</sup>	1.129×10 <sup>10</sup>

(3) ばね結合部の指定

ばねの両端の節点番号		ばね定数
2	32	
5	35	
7	37	
9	39	
11	41	
13	43	
15	45	
17	47	
19	49	
24	54	
27	85	
28	86	
31	58	
28	86	
78	80	
78	80	

(4) 節点の質量

節点番号	質量 (kg)
1	
2	
3	
4	
5	
6	
7	
8	
9	
10	
11	
12	
13	
14	
15	
16	
17	
18	
19	
20	
21	
22	
23	
24	
25	
26	
27	
28	
29	
30	
31	
32	
33	
34	
35	
36	
37	
38	
39	
40	
41	
42	
43	
44	
45	
46	
47	
48	
49	

(続き)

節点番号	質量 (kg)
50	
51	
52	
53	
54	
55	
56	
57	
58	
59	
60	
61	
62	
63	
64	
65	
66	
67	
68	
69	
70	
71	
72	
73	
74	
75	
76	
77	
78	
79	
80	
81	
82	
83	
84	
85	
86	
87	

(5) 材料物性値

材料番号	温度 (°C)	縦弾性係数 (MPa)	質量密度 (kg/mm <sup>3</sup> )	ポアソン比 (-)	材質
1	100	$1.96 \times 10^5$		0.3	
2	100	$1.97 \times 10^5$		0.3	
3	100	$1.98 \times 10^5$		0.3	
4		$1.99 \times 10^5$		0.3	
5		$2.00 \times 10^5$		0.3	
6		$1.99 \times 10^5$		0.3	

